

# 授業外の場面におけるグラウンド・ルールの導入

## Teachers' approach in introducing classroom ground rules out of class contexts

高垣 マユミ<sup>†</sup>  
Mayumi Takagaki

<sup>†</sup>実践女子大学  
Jissen Women's University

### Abstract

We Characteristics of teachers' approaches in sharing ground rules (GR) for discussion were examined from the perspective of relationships in a homeroom activity out of class contexts. First graders' interactions in a homeroom activity was interrelated by coding and interpretive analysis. The results were as follows: In the homeroom activity, the teacher encouraged the children to use GR through ideas and norms discussed in the homeroom activity as the 3frameworks of GR (Self control of behavior, Active engagement with others, Understanding self and others through interaction) to review the conversation and behavior. The teacher created the opportunities to learn the 3frameworks of GR, in a reciprocal relationship with the children, changing the topics flexibly, according to the conditions and the responses of the children.

**Keywords** — ground rule, classroom discourse, coding and interpretive analysis, first graders

### 1. はじめに

教授学習場面における典型的な談話の一例として、IRE連鎖を挙げることができる。これは、教師が児童に対して発問し、児童はその発問に回答し、さらに教師が評価を行うというやりとりの流れである。こうしたやりとりが行われる授業に対し、近年、児童が主体的に学び合う授業への要望が高まっている。その実現を図る教師の手立ての一つがグラウンド・ルール(以下:GR)の共有である。GRとは、教室独自の活動を成立させる、会話運用のための暗黙のルールである(Edwards & Mercer, 1987)。学び合う授業を実現するためには、教師主導の授業ではなく、学び合う授業を支えるGRを学級に根付かせていく事が不可欠である(Forman & Larreamendy, 1998)。しかし、これまでの研究では、教師がいかに「GRの導入」を図っているかについて、「授業外の場面」を取り上げた詳細な検討はなされてきていない。そこで本

研究では、授業外の文脈として、特に「朝の会」に注目した。なぜならば、朝の会は、とりわけ小学校低学年の児童にとって、集団意識の形成を促し、授業での学び合いへの共通基盤に繋がる重要な機会となりうるからである。以上より、本研究では、朝の会に注目し、小学校1年生の学級を対象に、その談話過程のカテゴリー分析及び解釈的分析により、朝の会において、教師がGRを導入する時期とその内容を特定することを目的とする。

### 2. 方法

対象: 小学校1年生児童28名(男子12名, 女子16名)。教師は教職歴5年の男性。

手続き: 入学後の1学期間に渡って参与観察を行った。朝の時間において話し合い活動が中心に行われていた12回分のデータ(朝礼や集会等の儀式的活動, 朝読書, 計算ドリル, 歌等の学級会活動を除く)を採取し, 授業後に授業者にインタビューを行った。分析方法は, ビデオカメラで採取した映像音声記録からトランスクリプトを作成し, 参与観察時のフィールドノートによる文字記録等に基づきながら, 発話のカテゴリー分析及び解釈的分析を行った。

### 3. 結果と考察

朝の会を通じて教師が共有を図っていたGRの内容をそれぞれ示した。Table1に示した通り, 朝の会のGRは「自分の行為の制御」, 「他者との積極的な関わり」, 「関わりを通じた自己理解」という三つの側面に分類可能であった。

Table 1における「自分の行為の制御」とは, 学校生活における多様な活動の目的や, その時々状況に応じて, 自分がどのように振舞うべきかを判断し, 自分の行為をモニターし, 調整する事

を求める GR である。例えば、教師は通学時における乗車マナーなどの話題を採り上げてこの GR を児童に示していた。この GR は、上記の三つの側面の中でも、入学後の最初の時期に導入されていることが明らかにされた。

5 月になると、教師は新たに「他者との積極的な関わり」という GR の導入を図っていた。この GR は、他者の行動や言葉にこめられた意図や気持ちを積極的に理解する事を求める GR である。例えば、教師は児童に対して、けんかをするときには手をあげるのではなく、相手の言葉をしっかりとつかんで、広い心で受け止めてあげるようにする、というように、言葉が足りない相手の気持ちを積極的に考え、理解しようとする事が重要であると伝えていた。4 月の段階でも、朝の会において校長先生の話を書く事を話題とする事があったが、その際には、上記の「自分の言動の制御」という GR について、静かに話を聞く事の重要性だけを示していた。

6 月には、教師は「関わりを通じた自他理解」に関する GR の導入を図っていた。この GR は、友だちとの積極的な関わりを通じて、自分と他者の違いを知り、互いの良さや、さらに高めていくべき部分などについての理解を求めるものである。このように教師は、朝の会において、学校生活で

共通して求められる他者との関わり方のルールを示していた。また、その内容も、自分について、他者について、関わりを通じた学びについて、という視点の広がりが見られることが示された。

以上の参与観察による談話過程のカテゴリ分析の結果、朝の会の文脈において教師は、児童の状況や反応に応じて柔軟かつ即時的に課題を転換しつつ、児童との互恵的な関係性において、児童が主体的に学び合うための枠組みを学ぶ機会を生成していることが示唆された。

最後に、本研究では、教師の視点から GR の働きかけを分析した。さらに今後の課題として、教師からの GR の働きかけにより、児童はどのような変化が見られるのか、さらには、そうした変化が学び合う授業をどう支えていくのか、という児童からの視点についても検討していく必要があると考えている。

#### 4. 引用文献

- Edwards, D., & Mercer, N. (1987). *Common Knowledge: The development of understanding in the classroom*. London: Methuen / Routledge.
- Forman, E.A., & Larreamendy-Joerns, J. (1998). Making explicit the implicit: Classroom explanations and conversational implicatures. *Mind, Culture, and Activity*, 5, 105-113.

Table 1 教師が朝の会において導入した GR の内容

GR	内容	具体例
1. 自分の行為の制御	学校生活における多様な活動の目的や、その時々状況に応じて、自分がどのように振舞うべきかを判断し、今の自分の行為をモニター、調整する。	この辺で自分の鏡があって、もう一人の自分が自分を見るような気持ちがあると大丈夫です。／電車の中でも、友達が横にいれば、すぐに大声でおしゃべりをして、周囲の人に嫌な気持ちを与えていることなど、少しも気にせず平気な人がいます。
2. 他者との積極的な関わり	他者の行動や言葉にこめられた意図や気持ちを積極的に理解しようとする。	ここのクラスはずーっと。折り紙が自分の近くに落ちてても、ちっとも気づかなかったね？本人が気づかなくても、誰かに気づいて欲しかった。S君、落ちてるよとか。／けんかでも、しっかりと自分や人のことを考えたけんかをする。手をあげるのではなく、言葉をしっかりとつかんでください。その言葉も、ちゃんとした広い心で、言ったり、受け止めたりする。
3. 他者との関わりを通じた自他理解	他者との積極的な関わりを通じて、自分と他者の違いを知り、その事を通じて、互いの良さ、さらに高めていくべき部分などについての理解を深めていく。	お友達に対して、わたしの裏の裏まで自分を出してあげようかなって。裏っていうのは、自分自身も知らない、自分の力があります。ね？ あー、こういうときはちょっと弱いんだとか、あー、こういうこと、案外やれるんだ、頑張れるんだとかね。そういう見えない良い力に気づいて下さい。